ベトナム・ハノイから見た日本-28歳女性の場合

④ 3種類の同世代が交わる

前回は、日系企業ベトナム現地法人での営業の日常を紹介しました。今回は、私以外の「ハノイの 28 歳日本人」にどんな人がいるのかを書いていこうと思います。 気楽な 28 歳コミュニティーから、みなさんは何を思いますか?

■83年生まれの会

ハノイにある日本企業は、当然ながら日本に比べて日本人は少ない。社内に、同世代の日本人が居ることも少ないから、会社を超えた横のつながりが強くなる。「同年会」が盛んで、私も1983年生まれの人の会、「83会」に何度か顔を出したことがあります。

83 会は、30 人ほどメンバーが居て、毎月の飲み会には 15~20 人ほどが顔を出す。これは、おそらくハノイの同年会では一番多い人数ではなかったかと思います。エリート、中小企業、はみ出し者(?)と、いろんなバックグラウンドで来ている人たちの顔ぶれを見てみると、その多い理由が分かります。

■エリート、中小企業、現地採用

エリートと書いたのは、いわゆる大企業の「語学研修生」。会社のお金で、ベトナム語を習いに来ている人。ベトナム語は、中国語以上に発音が複雑なので、拾得は難しいのですが、1年で形にすべく、商社、メーカー、銀行、外務省などの28歳が来ています。

中小企業でも、今は工場や拠点の東南アジア進出は 日常茶飯事。入社から 5~6 年たち、ベテラン社員より も小回りが利いて、まだ結婚もしていない(ので、会社 も手当を多く払う必要がない)28 歳あたりに渡越の声 を掛けやすいのでしょう。ある運送会社は、28 歳の男 の子 2 人で、ハノイの拠点を切り盛りしていました。

そして、私のように現地採用組も3分の1ほどいます。 女の子が多かったのですが、おおよそ「転職先の一つ」としてハノイの会社を目指したような人たち。日本での閉塞感もあるけど、「結婚したらもう海外で働くチャンスはない!」というタイミング感もあります。

■将来設計を尊重しあう

正直に言うと、この同年会はなかなか楽しいものでした。なぜか、と考えてみると、あまりにもみんなの将来設計が違い過ぎて、お互いの価値観を批判することもなく、素直に仕事や身の回りの話ができたということかもしれません。日本では「異業種交流」が少なく、いわゆるビジネス目的での勉強会のようなものがほとんどではないこともあるかもしれません(私の感覚ですが)。その理由にしても、私の仮説としては、ただ「仕事の後の余暇時間が少ないから」だと思っていますが。

そうはいっても、エリート、中小企業、現地採用では、会社の待遇は違います。それでも飲み会は、ちょっといいものを食べて飲んでもだいたい 1000 円以下。(ちなみに、町の商店で缶ビールを買えば、ハイネケンが60円、ハノイビールが40円くらい)。日々遊んでいる分には、住む場所以外は、待遇の違いを感じることは少ないです。



(出所や流通経路は怪しいですが、ハノイの食べ物は安い!)

ベトナムで、ネズミやゴキブリに負けず、難しいベトナム語をやりくりしながら働く同世代を頼もしく思いつつも、遊ぶのにお金がかからず、こうやって異業種交流も楽しめてしまう刹那的な(?)生活に身をゆだねてしまう人も居ます。28歳という年齢やタイミングをどうとらえ、ここに居る時間をなににつなげていくのか。日本と違って、考える時間はたくさんあります。